

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 24 No 4

273号

平成28年 4月 6日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

子育て支援フォーラム in 宮城

院長

CLINIC NEWS で、今まで何度も虐待のことを取り上げてきました。4月2日に日本医師会、SBI子ども未来財団、宮城県医師会共催による「子育て支援フォーラム～子育て応援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して～」が開催されました。

まず、ちょっとした経緯を話しましょう。フォーラムはもともと昨年9月に予定されていましたが、「嵐」のコンサートと重なったため延期になりました。昨年春頃、医師会佐々木担当理事から「どなたか小児科で虐待の話ができる人がいませんか」と相談を受け、なんの迷いも無く「私ではどうでしょうか」と返答したのが始まりでした。その後「自分からやりますというのは珍しい」とのお褒めともつかない言葉が、ちょっとした励みとプレッシャーになっていました。開催2週間前に担当理事から「参加人数が少ないので、先生のネットワークを使って人を集めて欲しい」と懇願され、ここが腕の見せ所とばかり力を込めて、仙台市（子供未来局、健康福祉局、教育局）、歯科医師会、薬剤師会、マスコミ等々、ありとあらゆるところに働きかけました。

参加者数を心配していましたが、150人を超えた席の埋まり具合に、ほっと胸を撫で下ろしていました。基調講演の後は、日本医師会と県医師会推薦講師4名によるシンポジウムです。院長のテーマは「子育て支援と虐待予防～小児科医にできること～」で、子育て支援・行政との連携・「命の大切さ」の三部構成。その前にちょっとしたエピソードを紹介しましょう。院長はMac派ですから、PCをWindowsからつなぎ変えなければなりません。切り替え時よくトラブルが起きるのですが、案の定プロジェクターが映りません。普通の人は聴衆をも気にせず、黙々とPCと格闘します。幸いと言うか慣れている自分は、不安な気持ちを悟られないようアドリブで雑談を交えながら対応し、ちょっとした笑いまで誘うことができました。実は演出じゃありませんが、この笑いこそがイントロの重要な要素なのです。そんな話はさておき、内容に触れましょう。“子育て支援活動”では、新生児医療を通して“母親の三重苦”を

知り、開業理念に「お母さんの不安・心配の解消」を掲げたこと。CLINIC NEWS、HP、医療相談、育児サークル、患者専用アドレスを紹介して、それぞれの活動が「不安・心配の解消」に役立っていることを寄せられた母親たちの声とともに紹介。医療相談には深刻な相談が寄せられ、「先生の愛に触れることは、枯れ果てた私の心にどれだけの大きな安心感をもたらしてくれたかわかりません」との感謝のメールを示して相談の意義と必要性を説きました。“行政との連携”では、虐待関連の委員長として「訪問のすすめ方と医療機関連携マニュアル」を制作、活用。措置・里親審査部会委員として生後4カ月虐待死亡事例から健診票の収集方法を改善したことを紹介。検討だけに留まらない、新しい対策を生み出すことの重要性を強調しました。“子どもたちに伝えたい「命の大切さ」”は、小学4年生の性教育授業「赤ちゃんはどこから来るの」を示し、750gで産まれた児が「お父さん」になったケースから、命は多くの人に支えられ繋がっていることを伝えました。保護者への講話では、生後4日で死亡搬入されたケースから、「命の大切さ」を伝える重要性を示しました。このような取り組みを通して自分だけでなく、多くの人たちを大切に思う心が育ち、ひいては自殺・いじめ・虐待防止となることを願って止まないと結び、虐待予防は妊娠・出産・育児期を通じた時間軸にそった縦断的対応、行政含めた他職種との横断的連携が必要であり、「命の大切さ」を伝えることの意義の重要性を強調して話は終わりました。



柿沼助産師（佐々木悦子産科婦人科クリニック）は、「産科医療の現場から～ママたちの声に耳をかたむけて～」と題して、“おっぱい教室”等の具体的取り組みを紹介し、妊婦と産婦へのアンケート結果を示しました。回答者からの声を紹介しながら、自分の活動と同様に「不安・心配の解消」の重要性を強調しました。自称宮城県組は、実際の活動から得られた結果を示し、虐待予防のためには他職種との連携が重要との結論点でも一致していました。職種が違っていても、目指すところは同じであることを再確認できました。この度は本当に多くの方々にご参加を頂き、ありがとうございました。さて自分の講演はどうだったのでしょうか。質疑応答で東京の助産師から性教育の評価があり、担当理事からは「全部が先生の講演でよかった」とのお世辞ともつかないお褒めの言葉で満足して終わることができました。

この度は本当に多くの方々にご参加を頂き、ありがとうございました。さて自分の講演はどうだったのでしょうか。質疑応答で東京の助産師から性教育の評価があり、担当理事からは「全部が先生の講演でよかった」とのお世辞ともつかないお褒めの言葉で満足して終わることができました。

この度は本当に多くの方々にご参加を頂き、ありがとうございました。さて自分の講演はどうだったのでしょうか。質疑応答で東京の助産師から性教育の評価があり、担当理事からは「全部が先生の講演でよかった」とのお世辞ともつかないお褒めの言葉で満足して終わることができました。

栄養育児相談 4月のお知らせ

13、27日（水） 13:30～

栄養士担当 参加無料

午後休診

2日（土）

子育て支援フォーラム参加のため



『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

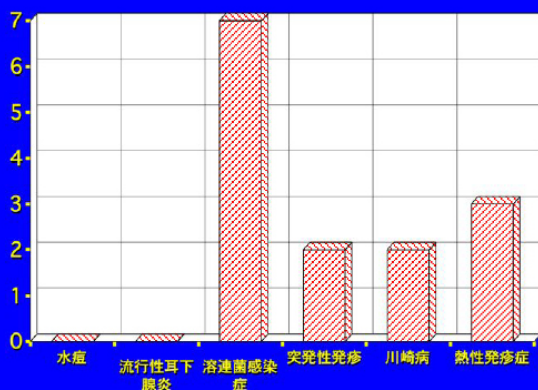
先月は10通のメールをもらいました。最近では患者さん専用アドレスに限らず、クリニックF.B ページにもコメントがたくさん寄せられています。F.B. は誰でも読めますので、是非ご覧ください。まずは3.11 震災の思い出を青葉区の紺野さんが寄せてくれました。「いつもお世話になっております。紺野愛結と莉愛の母です。子供達が小学生になっても、年に何度かは先生のクリニックにお世話になっていますが、就学前に比べるとめっきり減りました(^.^);でも、覚えています。震災後、まだ水も出ない中、かわむら先生がクリニック診療を再開してすぐ助かったことを。当時の日記を読むと、莉愛が、震災直後の3月13日の夜から熱を出し、14日の夜には40度の熱。15日の夜遅くには41度の熱！16日も熱が下がりませんでした。当時携帯電話を持っていなかった私は、同じ社宅の友達に電話を借り、わらをもつかむ思いで、16日、かわむらこどもクリニックに電話しました。すると、クリニックを再開したとのこと。驚きと同時にうれしさが込み上げて、すぐにクリニックに駆けつけたことを覚えています。水やガスも出ない状況でしたので、いつもお化粧バッチリのスタッフの皆さんも、ノーメイクで受付、診療に当たってくれていました。この大変な時期に、体調を崩す子供達のため、診療再開という決断をしてくださり、熱いものが込み上げてきたことを思い出します。薬局でも、水が出ないのでシロップは作れませんが～と粉薬を用意してく下さり、この大変な時でもお薬をいただけて、本当にありがたいと思いました。子供はどんな時に体調を崩すかわかりません。そんな子供達のために、できる限りの最善を尽くして下さったかわむら先生、スタッフの皆さん、あの時はお世話になり、本当にありがとうございました。忘れることのできない、感謝の思いがよみがえってきます。2歳半だった莉愛も今では一年生。もうすぐ二年生になります。おかげさまで、毎日元気に学校に通っています(^-^)/」。先月号は震災特集でしたが、思い出話ありがとうございました。記事にも書きましたが、一番重要なことは“忘れないこと”です。またここで新たに思い出し、皆さんに役立っていることを確認できました。ありがとうございました。



続いてはちょっと厄介な皮膚疾患だった泉区の匿名さんからのです。「今日はありがとうございました。金、土の受診から、薬を処方してもらい4日でよくなり、ほっとしています。やっぱりかわむら先生はすごいです！皮膚科の薬があつてないこと、子供の足の痛みに早く気づけずに無理させてしまったこと、とても反省しています。でも、今回は事故つて考えて、あまり深く考えると辛くなるから、という言葉に救われました。〇〇は優しく寂しがりやで繊細な子なので、◎◎のことばかりだけではなく、〇〇にもっと意識して扱っていかねばと思います。失敗を繰り返すダメ母ですが、いつもなに一つ責めずに、応援してくれてありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いします。お忙しいと思いますので、返信は不要です。」。病気になって辛い思いをするのは当然子どもですが、母親も同様です。そんな時に少しでも支えるのが、小児科医の役割と思っています。虐待の話を一画記事に書きました。その中でも強調したのが、誰かが母親たちの受け皿になることです。もちろん小児科医も受け皿のひとつと考えて対応しています。

次は患者さんからのメールではありませんが、一面で紹介しきれなかったものです。フォーラムに参加した東北放送笠原記者からのメールです。「土曜日の子育て支援フォーラムでは大変興味深いお話をお聞かせいただきありがとうございます。カメラ入れとくべきでした(苦笑) 虐待の問題はかねてから気になっていたのですが、我々からも大変見えずらく、なぜこのような事件が起きるのかがよく分からないことが多いと言えます。このため私はどこかで“特殊な事件”というか“ろくでもない親の仕業”という見方をしてきたのですが、フォーラムをお聞きし、そうではないことがよくわかりました。虐待は今の社会病理の何かを象徴していると思えました。」。もうひとつF.B ページへ寄せられた青葉区の龍田さんからのコメント「参加者が多かったことは喜ばしいことです。少しでも感心を持つことが必要な分野だと思うので…と言いながら、私は、仕事で参加できなくてすごく残念でした。虐待は、周囲の関心がないと無くならないと思っているので…」。頂いたメッセージへの返信です。「まさにその通りで、虐待は対岸の火事みたいなもの。このフォーラムは、虐待がどこにでもあることを知ってもらおうのも目的のひとつ!!」。ということで、虐待は特殊なものではなく、いつどこで起きるかもしれないのであることを理解した上で、虐待に対する認識を持ち連携を図って虐待を予防できる社会を作っていきましょう。

3月の感染症の集計



珍しくおたふく、水痘の患者さんはいませんでした。溶連菌感染症も減少し、目立った感染症の流行はありません。グラフには示していませんがインフルエンザも減少してきています。最近の週報では下火になってきたようです。感染性胃腸炎も減少傾向です。川崎病というのは馴染みがないですが、原因不明の病気です。発熱、発疹、口の変化、結膜充血、頸部リンパ節腫脹、手足の変化の6項目のうち4項目みられるものを川崎病と診断します。冠動脈の合併症がみられることがあり、早期発見と治療が必要です。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、560人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

その他の情報発信としてFacebook ページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBを見てください。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

虐待の事件がマスコミを賑わす中、子育て支援フォーラムが開催されました。虐待を防止しようとしても、なかなか手だてはありません。4ヶ月の虐待死事件の検証にかかり痛感しました。僅かですが、理念に基づく子育て支援、さらには「命の大切さ」を伝える取り組みを続けていかなければならないと決意を新たにしています。全ては、「未来を担う子どもたちのために!!!」



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!